

授業概要

本授業では、教育の基礎的な概念を、歴史・思想の視点から講義をする。具体的には、大人と子どもの関係から教育の基礎的な概念を理解し（第2・3回）、近代教育の思想と教授学の歴史を学び（第4～8回）、日本の近代教育の歴史を学ぶ（第10～15回）。以上のことを通じて、「教育」を原理的に考察する視点・態度を身につけることを目標とし、現代の私たちが無意識的に持っている「教育観」を問い直すことを目指す。授業で扱う内容は歴史的な事項が多いが、それらは全て現代の教育につながっていることであり、これらを学ぶことによって、現代の教育について原理的＝反省的にとらえていく機会を授業では設けていきたい。

授業計画

第1回	「教育」とは何かを考える（ガイダンス含む）
第2回	前近代社会における人間形成と子ども：捨子・子殺し・通過儀礼
第3回	近代家族の形成と「<子ども>の誕生」：アリエス
第4回	近代教育の思想と教授学の歴史（1）：コメニウス
第5回	近代教育の思想と教授学の歴史（2）：ロック
第6回	近代教育の思想と教授学の歴史（3）：ルソー
第7回	近代教育の思想と教授学の歴史（4）：ペスタロッチ・フレーベル
第8回	近代教育の思想と教授学の歴史（5）：ヘルバルト
第9回	近代教育の思想と教授学の歴史（6）：デューイ
第10回	近代日本の教育の歴史（1）：近世の学びの世界
第11回	近代日本の教育の歴史（2）：近代学校と一斉教授
第12回	近代日本の教育の歴史（3）：ヘルバルト主義の導入
第13回	近代日本の教育の歴史（4）：大正新教育
第14回	近代日本の教育の歴史（5）：綴方教育運動
第15回	近代日本の教育の歴史（6）：戦時下の教育と戦後教育改革（まとめを含む）
第16回	筆記試験

到達目標

- ・教育の基礎的な概念について、教育を成り立たせる諸要因との関係を理解できるようになる。
- ・教育の歴史的事実から、現代に至るまでの関係を理解できるようになる。
- ・教育思想から、現代の「教育」を反省的に省察する態度を身につける。

履修上の注意

第1回のガイダンス授業の際に、授業方法・評価方法・予習・復習について詳細に説明する。成績評価に関わる内容であるため必ず出席すること。なお、第1回目授業に出席できない特別な理由がある場合（あった場合）には申し出て、配布資料を必ず受け取ること。

予習復習

予習：授業の最後に次回の授業資料を配付するので、その内容について読んでおくこと。
復習：毎回の授業で出された課題を確認し、理解できていない場合は授業資料を復習し、さらに学びたい内容があれば授業資料に示した参考文献を読むこと。

評価方法

授業参画度（授業態度・授業中の発言等）＝10%、授業での提出物の内容＝30%、学期末のテスト＝60%。
履修者の状況によっては、中間テストを行う場合がある。なお、教職に関する科目のため、成績評価は厳しい態度で行う。評価方法の詳細は、第1回のガイダンス授業で説明する。

テキスト

毎回、授業資料を配付する。授業内容についての参考文献は、授業資料で示すので、それを参考にしてもらいたい。